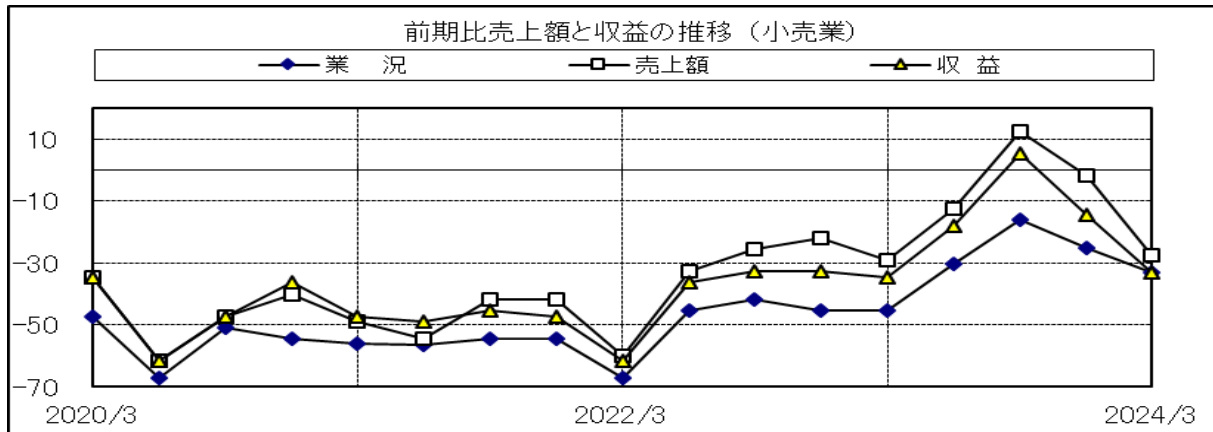


小 売 業 53 企 業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 見 通 し
業 況	-16.0	-25.0	-33.3	-25.9
売上額	12.5	-1.8	-27.7	-5.5
収 益	5.5	-14.3	-33.3	-3.7

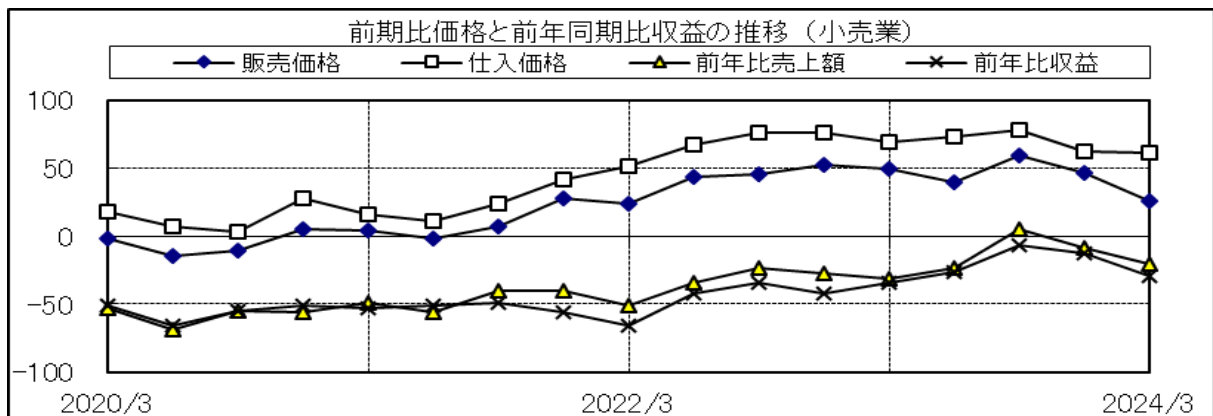
今期の業況判断 D. I. は△33.3 で、前期比 8.3 ポイント下降、前年(△45.4)比では 12.1 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、広尾が最も高く、次に、三石、様似、浦河と続き、静内・えりもが同率で最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△27.7 で、前期比 25.9 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△33.3 で、前期比 19.0 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 見 通 し
販売価格	58.9	46.3	25.9	27.8
仕入価格	78.5	62.5	61.1	37.1

販売価格判断 D. I. は 25.9 で、前期比 20.4 ポイント下降、前年(49.1)比 23.2 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 61.1 で前期比 1.4 ポイント下降、前年(69.1)比 8.0 ポイント下降した。業種別では、衣料品は販売、仕入価格ともに上昇。食料品、家電品は販売、仕入価格ともに下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 見 通 し
残業時間	-1.9	-5.3	-1.8	-1.8
人手状況	-23.2	-21.4	-13.0	-11.2

残業時間判断 D. I. は△1.8 で、前期比 3.5 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△13.0 で、前期比 8.4 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

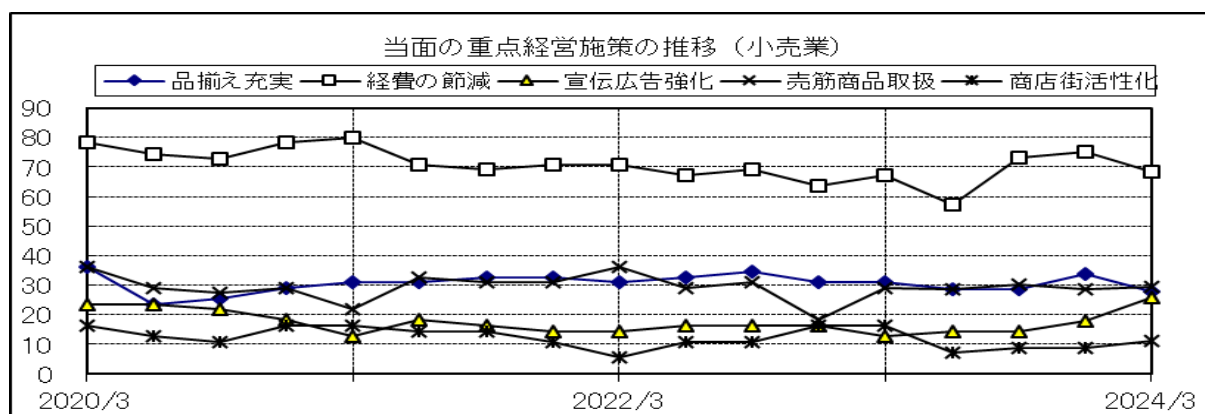
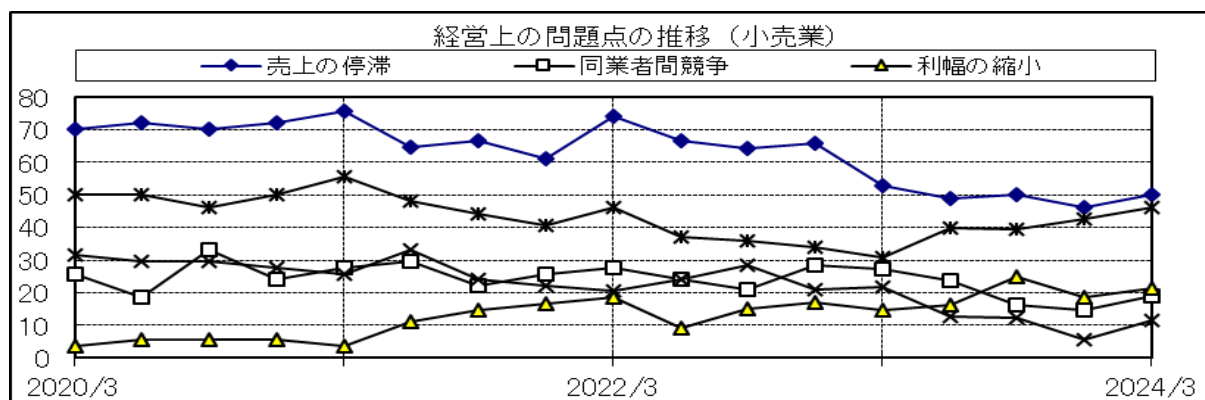
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD.I.は $\Delta 9.3$ で、前期($\Delta 8.9$)比0.4ポイント下降した。
設備実施企業割合は7.4で、前期(8.9)比1.5ポイント下降した。設備投資は、前期5社に対し4社の実施となった。来期の設備投資は、4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が50.0%と最も多く、次に「商圈人口減少」46.2%、「利幅縮小」21.2%、「同業者競合」19.2%、「値上要請」15.4%、「地場産業衰退」13.5%、「大型店競合」11.5%、「人手不足」・「諸経費増加」・「取引先減少」・「天候不順」が9.6%、「販売商品不足」・「人件費増加」・「商店街集客力低下」・「店舗の狭隘老朽化」が7.7%、「代金回収悪化」3.8%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が68.5%と最も多く、次に「売れ筋商品取扱い」29.6%、「品揃え改善」27.8%、「宣伝広告強化」25.9%、「仕入先開拓選別」20.4%、「商店街活性化」11.1%、「人材確保」7.4%、「店舗設備改装」5.6%となった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は $\Delta 25.9$ と、今期比7.4ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D.I.は $\Delta 5.5$ と、今期比22.2ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は $\Delta 3.7$ と、今期比29.6ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D.I.は27.8と、今期比1.9ポイントの上昇を見通している。

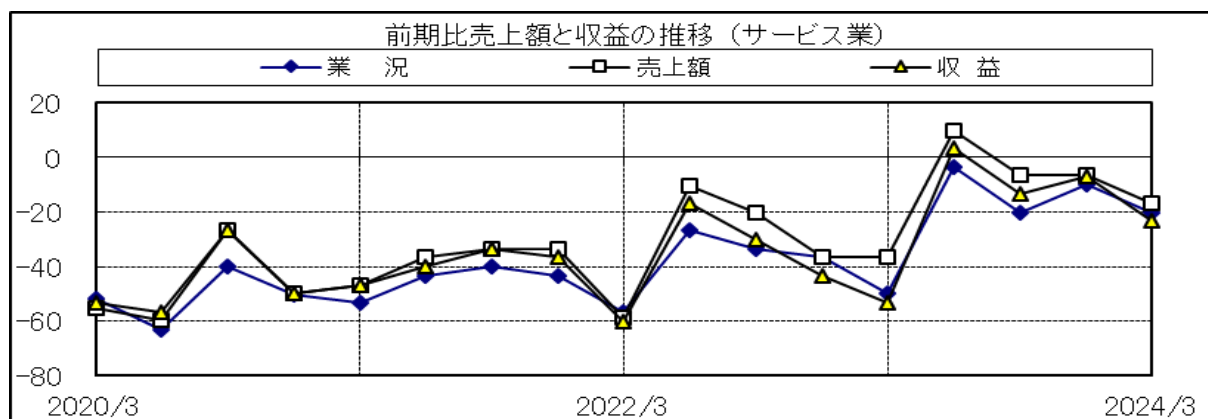
予想仕入価格判断D.I.は37.1と、今期比24.0ポイントの下降を見通している。

サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
業 況	-20.0	-9.9	-20.0	-13.3
売上額	-6.6	-6.6	-16.7	20.0
収 益	-13.3	-6.7	-23.3	16.6

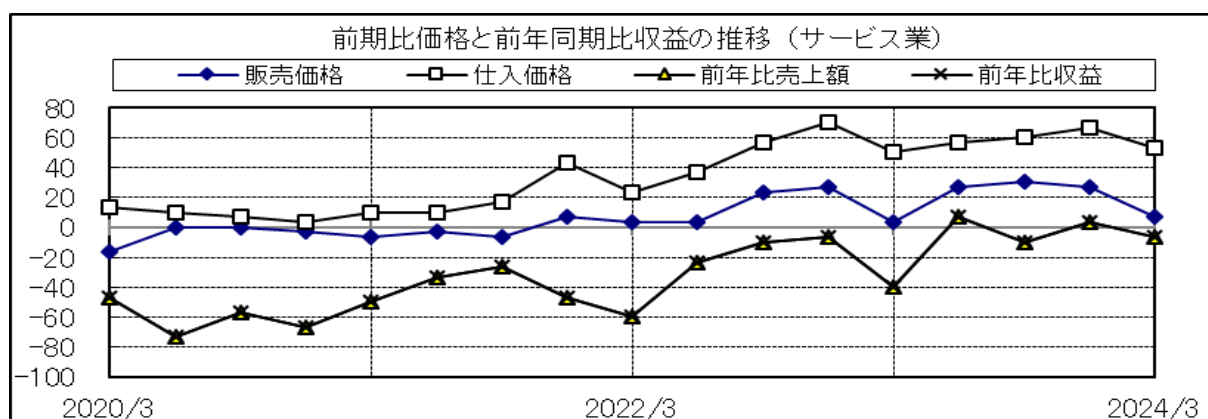
今期の業況判断 D. I. は△20.0 で、前期比 10.1 ポイント下降、前年(△3.4)比では 16.6 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、三石が最も高く、次に、広尾、浦河、えりも、静内と続き、様似が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△16.7 で、前期比 10.1 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△23.3 で、前期比 16.6 ポイント下降した。



□ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
料金価格	30.0	26.7	6.7	13.3
材料価格	60.0	66.7	53.3	33.3

料金価格判断 D. I. は 6.7 で、前期比 20.0 ポイント下降、前年(3.3)比 3.4 ポイント上昇した。材料価格判断 D. I. は 53.3 で、前期比 13.4 ポイント下降、前年(50.0)比で 3.3 ポイント上昇した。業種別の料金価格は、洗濯理美容が横這い、旅館、自動車整備は下降した。材料価格は、旅館は横這い、洗濯理美容、自動車整備は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期見通し
残業時間	10.0	3.4	0.0	-3.4

残業時間判断 D. I. は 0.0 で、前期比 3.4 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△37.9 で、前期比 4.5 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

人手状況	-26.7	-33.4	-37.9	-36.6
------	-------	-------	-------	-------

□ 設備投資の動き

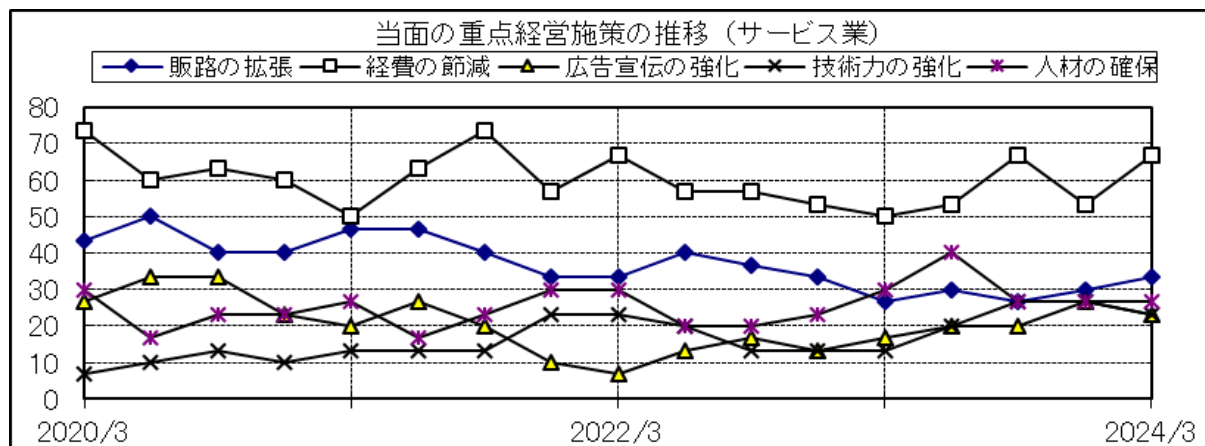
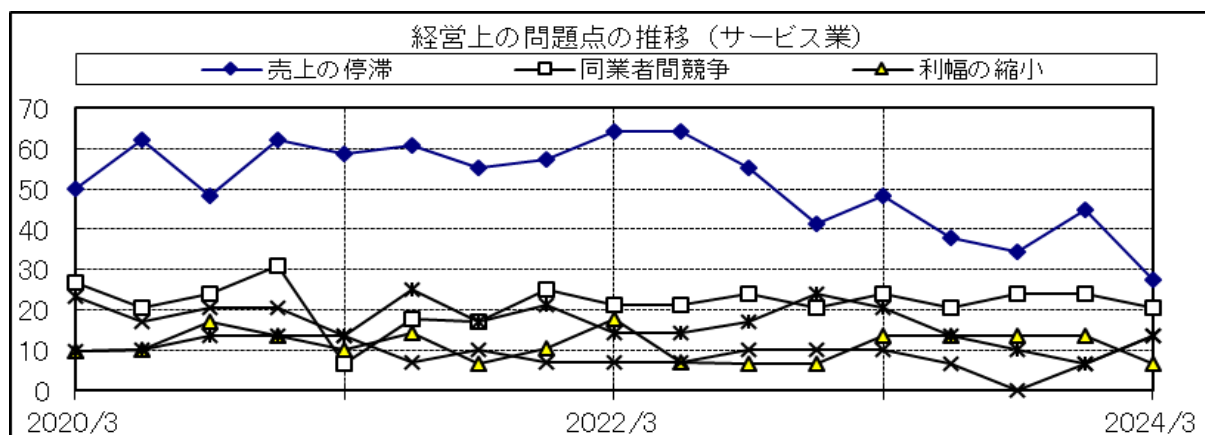
設備投資の充足感を示すD.I.は $\Delta 10.0$ で、前期($\Delta 10.0$)と同水準となった。

設備投資実施企業割合は10.0で、前期(13.3)比3.3ポイント下降した。設備投資は、前期4社に対し、3社の実施となった。来期の設備投資は、4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「商圏人口減少」が51.7%と最も多く、次に「材料価格上昇」48.3%、「売上停滞減少」・「人手不足」が27.6%、「同業者競合」20.7%、「人件費増加」・「地場産業衰退」が13.8%、「利幅縮小」・「料金値下げ要請」・「諸経費増加」・「取引先減少」・「店舗設備老朽化」が6.9%、「合理化不足」・「技術力不足」・「代金回収悪化」・「天候不順」が3.4%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が66.7%と最も多く、次に「販路拡大」33.3%、「人材確保」26.7%、「宣伝広告強化」・「技術力強化」が23.3%、「提携先確保」・「労働条件改善」が10.0%、「店舗設備改善」・「教育訓練強化」が6.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は $\Delta 13.3$ と、今期比6.7ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D.I.は20.0と、今期比36.7ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は16.6と、今期比39.9ポイントの上昇を見通している。

予想料金価格判断D.I.は13.3と、今期比6.6ポイントの上昇を見通している。

予想材料価格判断D.I.は33.3と、今期比20.0ポイントの下降を見通している。

